

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和4年度採択）

事後評価（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2022-2	権利と効率のストック効果に基づく社会的意思決定方法と実用的なストック効果計測手法の開発	神戸大学大学院 教授 小池 淳司	B

<研究の概要>

権利と効率のストック効果に基づく道路事業の社会的意思決定方法および道路事業が有する多面的な機能の評価のための実用的なストック効果計測手法の開発を行う。

<事後評価結果>

- ・2年度目に研究が大幅に進展し、十分な成果を挙げている。ただ、研究の性格上やむを得ないのかもしれないが、結論が「提案」になっており、その妥当性が評価できない。
- ・当初設定した目標は概ね達成されているが、一部項目（便益計測に活用可能な支払意思額の整備）については達成されなかったようである。また、提案された方法論について、適用性、妥当性等については未知数な点があり、更なる検討が必要。
- ・英国での新たな取り組みや生産性向上便益の試算等、新たな知見が含まれている。ただし、当初の主たる研究対象であるはずの権利のストック効果の実態が必ずしも明らかになっていない印象が残されている。
- ・研究の思想・考え方は十分わかったが、実装が難しいと感じた。どこまでの研究成果で、今後の政策でどう扱えばいいのか判断が難しい。
- ・今後の道路政策に対して有用となり得る新たな概念・指標に関する研究開発について、研究費規模に見合った成果を概ね上げられたと評価する。
- ・事業評価という重要かつ困難な研究課題に対し、海外政府へのヒアリングを含む説得力の高い調査結果や、調査結果を踏まえ我が国の評価制度の再構築に資する体系的な整理など、貴重な研究成果となっている。

このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。

<参考意見>

- ・諸外国における事業評価制度を丁寧にレビューし、これを踏まえた我が国における評価制度の再構築に向けた課題の整理は非常に価値の高い研究成果である。我が国の道路施策の現状を踏まえた、実現可能性の高い提案があればより望ましく、今後、行政側において実務への適用可能性等について検討が必要である。事業評価に係る海外の制度や国内の研究事例は日々アップデートされることから、本研究以降も継続的にフォローアップしていくことが重要である。
- ・今後の本来あるべき（特に地方部における）事業評価への転換が期待できる。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第50回新道路技術会議において審議したものである。